

R5年度 荻谷小学校 学校評価のまとめ

12月上旬に実施した「教育活動診断票（アンケート調査）」へのご協力、ありがとうございます。その結果をもとに、1月15日に「学校関係者評価委員会」を開催し、5名の委員の方とアンケートの分析を行いました。調査結果から見た傾向や特徴は次のとおりです。

○対象 保護者全員（回収率77.8%） 児童 4年生以上（145名）
 ○分析 4段階評価のうち、よくあてはまる（そう思う）とややあてはまる（だいたいそう思う）を合わせたものを肯定的評価ととらえ、それをもとに行っています。
 ※数値に付けた矢印↑又は↓は前年比5ポイント以上、↑↓＝10ポイント以上の変化を表しています。

＜本年度の重点努力目標＞

①「かしこい子」（知）の育成に向けて

（・「学ぶ」教室への意識改革と子ども同士が学び合い高め合える教室コミュニティの創造 ・体験活動を重視した学習展開 ・子どもの学習スタイルの確立）

A

・授業は分かりやすい	(児：91.0% → 保：84.0% ↗)
・進んで意見や感想を発表	(児：62.1% →)
・ペアトークの充実	(児：88.3% ↑)
・話をしっかり聞く	(児：95.9% → 保：83.0% →)
・考えや振り返りを書く	(児：84.1% ↗)
・家庭での学習（児童：自主的）	(児：80.0% ↗ 保：73.5% ↗)
・本を読むことが好き	(児：69.0% ↓ 保：39.5% ↓)
・タブレットの授業が好き	(児：91.0% ↓)

コロナ禍が明け制限がなくなったことで、コロナ禍に行ってきたタブレットを活用した活動とうまく融合できたことで、「ペアトーク」や「考えや振り返りを書く」の項目が上昇したと考えられる。また、「自主学習」や「家庭学習」でも、タブレットの家庭への持ち運びが可能になったことで、家庭学習が充実したと考えられる。今後も、タブレットの有効活用を研究していきたい。

一方、読書の関心は年々低下しており、特に、家庭での読書の機会が減少していると考えられる。本に代わってタブレットで資料や文章に触れているが、図書委員会が企画するイベントや本の紹介、今年度から制限の無くなったボランティアによる読み聞かせ活動を充実して子どもたちの興味を引き出したい。

②「あかるい子」（徳）の育成に向けて

（・体験活動を充実し、人のために働ける荻谷小文化の創造 ・道徳教育での自己内対話の重視 ・折れない心の教育 ・道徳教育、キャリア教育の充実）

A

・学校へ行くことが楽しい	(児：90.3% → 保：87.5% →)
・㊦あいさつや返事	(児：97.9% 保：84.5%) ※1
・約束やきまりを守る	(児：89.0% → 保：88.5% ↗)
・㊦学級の子や異学年の子との協力	(児：93.0%)
・㊦係活動やそうじに進んで取り組む	(児：97.9%)
・学校行事は楽しい	(児：93.1% ↗ 保：94.0% →)

※1：㊦とあわせた質問

「きまりよく」の校訓のもと、全体としては落ち着いた生活が送れている。また、行動制限がなくなり、みどりのチームの活動以外にも異学年交流が盛んに行われた。そこでは、学年を超えて良好な友人関係が築かれ、温かい心が育まれていることを感じる場面が多く見られた。

今年度はアンケート項目を見直したことで、昨年度との比較はできないが、児童・保護者ともにどの項目も高い評価であったが、「あいさつや返事」については、保護者・教員の意識とはやや開きがあった。1学期に5・6年生が全校に呼びかけてきたあいさつ運動等、子どもたちのあいさつへの取り組みを今後も支援していきたい。

③「げんきな子」(体)の育成に向けて

B

- (・「すこやかタイム」を生かしたバランスのとれた体力づくり
 ・学校保健委員会の充実と食育の推進 ・防災・安全教育の推進)

・早寝・早起き・朝ごはん	(児：85.5% ↗ 保：83.0% →)
・体力向上への取り組み	(児：81.4% ↗ 保：86.3% ↗)

「すこやかタイムに進んで参加」は、昨年度、児童・保護者ともに大きく上昇した項目であった。今年度も上昇し、コロナ禍前の状況に戻った。「早寝・早起き・朝ごはん」は、児童・保護者とも徐々に向上しており、今年度が一番高い数字となった。学校保健委員会への参加者も増加しており、健康に対する意識が高まってきている。これまでの、食育や保健の授業、保健委員会の取り組み、保健だより、給食だよりといった地道な取り組みが結果となって表れてきたのではないかと感じる。今後も、子どもたちが健康的な生活習慣を形成できるよう家庭と連携して支えていきたい。

④安心・安全で生活しやすい環境づくりに向けて

B

- (・「心の居場所」づくりといじめの未然防止・早期発見 ・個別の支援)

・㊦ルールを守った情報機器の使用	(児：87.8% 保：73.0%)
・相談できる友達がいる	(児：86.9% → 保：76.5% →)
・先生に相談	(児：61.4% ↘ 保：66.0% →)
・学校のことをよく話してくれる	(保：87.0% →)
・先生と子どものことを相談	(保：89.9% ↑)
・㊦通学班で安全に登下校	(児：92.4% 保：94.5%)
・いじめや問題行動への指導	(保：85.1% →)

重大ないじめ事案はなかったが、単発的な事案はあったので指導し、経過を注視している。個別の支援を必要とする児童に対しても、関係教員で情報交換を密にし、チームで対応していくことを心がけた。また、必要に応じて専門機関の方々とも連絡をとって進めることができた。今後も、学期に1度の生活アンケートと教育相談だけでなく、普段から児童理解と保護者との連携に努め、適切な支援を続けたい。

安全面については、登下校や放課での行動やタブレット(電子メディア)活用のルールの遵守に注視し、事故や事件に巻き込まれることの無いよう見守っていく必要がある。また、保護者にも便り等で呼びかけ、子どもたちの健康的な生活習慣形成のために家庭と連携していきたい。

⑤学校・家庭・地域の連携・協働に向けて

A

- (・通信、HP等の充実 ・地域の教育資源(ひと・こと・もの)を活用した「特色ある」教育活動の展開)

・㊦地域の人へのあいさつ	(児：97.9% 保：84.5%) ※1
・教育活動等の情報発信	(保：95.2% →)
・不審者のへの対応	(保：88.1% ↗)
・㊦自然災害への対応	(保：85.7%)
・保護者や地域ボランティアの活用	(保：89.8% →)

※1：②とあわせた質問

本校では、全校でのサツマイモ栽培や5年生の稲作、3年生のイチゴ栽培等、地域の方々からご指導いただいて教育活動を進めている。交通立番、読み聞かせ、親子活動、資源回収、美化作業等、保護者の方々にも支援していただいている。今後も、こういった活動を活発にしていくことや、学校の様子をホームページ等で広く発信して多くの人に知ってもらうことで、地域コミュニティとの関わりを保っていきたい。

また、最近多くなってきているゲリラ雷雨等、自然災害への対応についても、スムーズな引き渡しができるように対応を工夫していきたい。